

# しいのき

## 「健康」の時代相

名誉館長 三 隅 治 雄



ポスターは、変転する社会生活のある「時」の風俗や心象を活写する貴重な文化史料です。当館所蔵の須藤亮作氏コレクションの戦時中ポスター1,500枚の中の一つ「健康」にも、「あの時代」の切ない社会相が滲み出ています。国民挙げての健康が叫ばれていた戦時下で、最も恐れられ、死亡率の圧倒的に高かったのが結核でした。頼みの青年男女が肺結核で続々倒れて行く。これではならじと、健康を求めて懸命にジャンプする若者の姿のポスターが出ました。さいわい、戦後、化学療法の急速の進歩によって結核の猛威を押さえ、他の諸病も医薬の開発で治癒率を高めて、長寿の国となった日本ですが、さて現代、改めて「健康」を訴えるポスターをつくるとすれば、どのような標語が出てくるか。政治的には「核のない国平和の国」などがありますね。また、健康とは元来心身両面をいったもので、現代は、非行やいじめ、不登校などの問題を抱えて心の教育が叫ばれ、大人社会も「心の病」が懸念される時代ですから、それに向けての標語も必要です。みなさんもコピーライターになって、お考え下さい。

# 文化財よもやま話

## 交通今昔物語

さあ、2000年代突入です。激動の20世紀もあと1年を残すのみとなりました。歴史を振り返りこの100年を見ると、様々な物事の急激な変化に目を見張ります。その一つとして、運輸・通信・情報が挙げられるでしょう。今回は、交通手段の歴史と中野についてお話します。

乗り物は、陸上で車、水上で舟が活躍します。一般的に人や荷物を運びますが、神を乗せる御輿みこしもあります。方法は漕ぐ・担ぐ・引く等、そして駕籠や自転車・人力車のように人の力によるもの、牛馬などの動物の力を借りるものが見られます。ちょうど千年前に書かれた『源氏物語』の、主人公・光源氏の正妻・葵の上と鉢合わせした愛人・六条御息所が牛車で争う場面は、有名でしょう。

近代文明開化の波により、輸送の力は体力勝負から燃料の利用へと移り、交通体系・機関も公共性を帯びました。明治初期に欧米から輸入された機関車は、海上の「蒸気船」に対して「陸蒸気」と呼ばれ、錦絵や流行歌などで話題になります。汽車・鉄道馬車・電車・自転車など外来のものが街を走行する一方、日本人の発明品・人力車は海外にも輸出される流行ぶりでした。

『口承文芸調査報告書中野の昔話・伝説・世間話』には、「甲武鉄道(中央線)の反対運動」という、現代私たちが乗り慣れている鉄道のエピソードが載っています。当初青梅街道を通る予定であった鉄道は、麦わら屋根だった付近の農家によって「汽車が煙を吐くと火の粉ができて火事になる」と反対されたそうです。新しく移ってきた人々が住む今の中野駅周辺は反対されず、鉄道がひかれました。

早く目的地に到着できる鉄道は通勤・通学・参詣・行楽の客に利用され、中野駅も賑わいました。

やがて商店・住宅が立ち並び、しだいに中野に移り住む人も増えた、ということです。

鉄道の開通は町並みを急速にかえました。江戸時代馬やお駕籠が往来して栄えた青梅街道に並び、中野駅周辺はもう一つの中野の中心地となったのです。



# 大地に眠る歴史

## 昔の人は遺跡をどう見たか(2)

今回は、「筑後国風土記」の記述から、岩戸山古墳についての7世紀頃の人々の見解を確認してみよう。

岩戸山古墳は福岡県八女市にある全長176mの北九州最大の前方後円墳です。この古墳について「筑後国風土記」にはつぎのように書かれています。「上妻の県。県の南二里に筑紫君磐井の墓墳あり。(中略)墓田は、南と北と各六十丈、東と西と各四十丈なり。石人と石盾と各六十枚、交陣なり行を成して四面にめぐれり。」この記述のように岩戸山古墳には石人と石盾をめぐらされており、規模も記述に一致していることから、埋葬された人物が判明した数少ない古墳として有名です。筑紫君磐井とは北九州の大豪族で、大和政権に反乱して、西暦528年に大伴金村らに討伐された実在の人物です。

さらに、風土記には「生けりし時、あらかじめこの墓を作りき。(中略)官軍動発りて襲たむとするほどに、勢いの勝つましじきを知りて、独自、豊前国上膳の県に通れて(中略)官軍、追いまぎてあとを失ひき。士、怒りやまず、石人の手をうち折り、石馬の頭を打ちおとしき。」と記載されています。ここから岩戸山古墳は磐井の生前造られたものであること、討伐軍に石人、石馬が破壊されたことがわかります。実際に頭のない石馬が現在も残されています。

ここで興味深いことは、約200年前の出来事がきわめて詳細に伝承されていることです。これはこの事件が土地の人々にとって、大変印象深いものであったことを示しています。そのため岩戸山古墳がかっての豪族の墓であるという正確な情報が人々の間に言い伝えられたものと考えられます。

前回紹介しました大串貝塚の場合は、何千年も前ということもありますが、そればかりでなく、日常生活遺跡であるからこそ、忘却されるのも早かったのです。私たちの日常生活の記憶は、特別なことを行わないかぎり、すぐにこの世から消えていってしまうものなのでしょう。(つづく)

## 遺跡紹介

# 都内最大の集落

今回は、新聞やテレビを賑わすような大発見でなくても、小さな発見の積み重ねにより、私たちの身近な歴史が書き換えられるということを遺跡を題材に紹介します。

中野区には、『東京都遺跡地図』に記載されている遺跡が94ヵ所あります。これらは、地下に埋まっている文化財という意味で、“埋蔵文化財”と呼ばれています。

遺跡に指定されている場所を開発する場合、事前に文化庁に届け出、遺跡が残されているかを調べるために確認調査または、立会調査の実施をお願いしています。

区内では、今年度（1月まで）、確認調査9件、立会調査9件が行われています。

このうちの1ヵ所、平和の森公園北遺跡・新井三丁目遺跡でとても興味深い発見がありました。

### 平和の森公園北・新井三丁目遺跡

#### 発見のきっかけ

平和の森公園北・新井三丁目遺跡は、妙正寺池（杉並区）から始まる妙正寺川の南側台地上に広がる遺跡です。

ここには昭和58年まで70余年にわたって中野刑務所があり、遺跡の発見のきっかけもこのころにさかのぼります。

昭和38年、中野刑務所内でゴミ穴を掘っていたところ古い土器の破片が発見されました。これらを鑑定した結果、弥生時代の浅鉢、台付甕、壺の破片で、発見された場所は弥生時代の住居跡であることがわかりました。中野区教育委員会は、それらが埋蔵文化財であることを報告し、ただちに穴掘り作業を中止し、現状維持されるよう依頼しました。さらに埋蔵文化財の発掘調査を行い、報告書を作成し記録として永久に保存する必要があるため、発掘調査を実施したいと中野刑務所に申し入

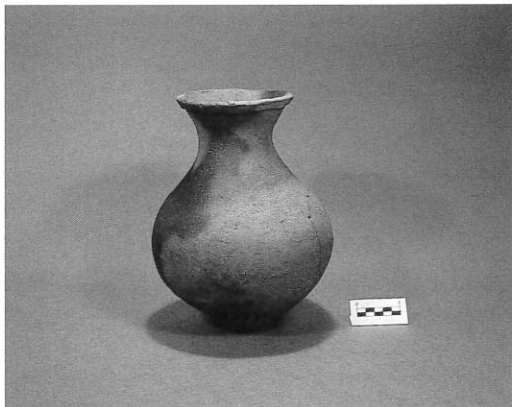
れました。そして、昭和39年1月26日に明石原人の発見で有名な直良信夫博士らによって発掘調査が行なわれることになりました。

調査の結果、住居跡は、2.5m×2.2mの小規模なもので、床面には、炭化した木材などが散乱したままの状態で見られました。直良博士の鑑定によると、木材は、クリ、シラカシ、カシワで、そのほかにススキも確認されました。その発見状態から、屋根材が火災のため、床面に焼け落ちたものと推定されました。

住居跡の中から出土した土器は、直立した状態であった壺形の完形土器1点と破片数点でした。これとゴミ穴を掘ったとき出土した土器とはセットで使われていたものと考えられます。

### 大集落の発見

その後、刑務所が廃止され、跡地の北側部分が中野区に、南側部分が東京都に払い下げられました。昭和57～58年、北側部分に中野区が防災公園「平和の森公園」を開設するにあたり、大規模な発掘調査が行われました。続いて、南側部分が、東京都水道局による「中野処理場」建設計画に伴い、昭和60年から62年にかけて発掘調査されました。元々こ



昭和39年の調査で出土した土器

の2つの遺跡は「中野刑務所遺跡」という名称でしたが、発掘調査を行った団体が異なったため北部分は「平和の森公園北遺跡」、南部分は「新井三丁目遺跡」と名称が違ってしまいました。

2つの遺跡からは、合わせて250軒の弥生時代後期の住居跡、掘立柱建物跡2棟、方形周溝墓5基をはじめ旧石器、縄文、古墳時代から、近世にかけて各時代の遺溝（地面に構築されたものの跡）・遺物がたくさん発見されました。

掘立柱建物跡は、高床を設けた倉と考えられており、収穫した稲などを保管する倉庫です。また、方形周溝墓は、弥生時代から古墳時代につくられた墓の一種で、集落の首長が葬られたと考えられています。1辺が20m前後、幅1～5m、深さ1～2mの溝を四角に巡らせ、溝はおのおのが独立したり、連続したりしたのがあります。墓の中央に穴を掘り死者を葬ったものが多くみられます。

弥生時代の遺溝の分布状況を観察すると、調査範囲の西端部分と南部分は、住居跡の密度が急に低くなります。また、東端では方形周溝墓が発見されています。方形周溝墓は、



新井三丁目遺跡住居跡出土状況

集落の端に作られることと、住居跡の密度から、この集落の範囲を推定することができました。これによると、南北約300m、東西約250mにわたり、面積は約75,000㎡におよぶ集落を形成していたこととなります。

## その後の調査

### \* A地点

昭和62年3月、「平和の森公園」西側道路整備に伴い、A地点（図1）の確認調査が行われました。A地点は新井三丁目遺跡の調査範囲に隣接した西側にあたり、163.2㎡を調査しました。調査の結果、遺溝・遺物ともに発見されませんでした。

刑務所関連施設の攪乱や盛土が多かったこともありますが、現地形も妙正寺川に向けての急傾斜地と想定され、遺跡の西側の広がりにはA地点まで及んでいないと判断されました。

### \* B地点

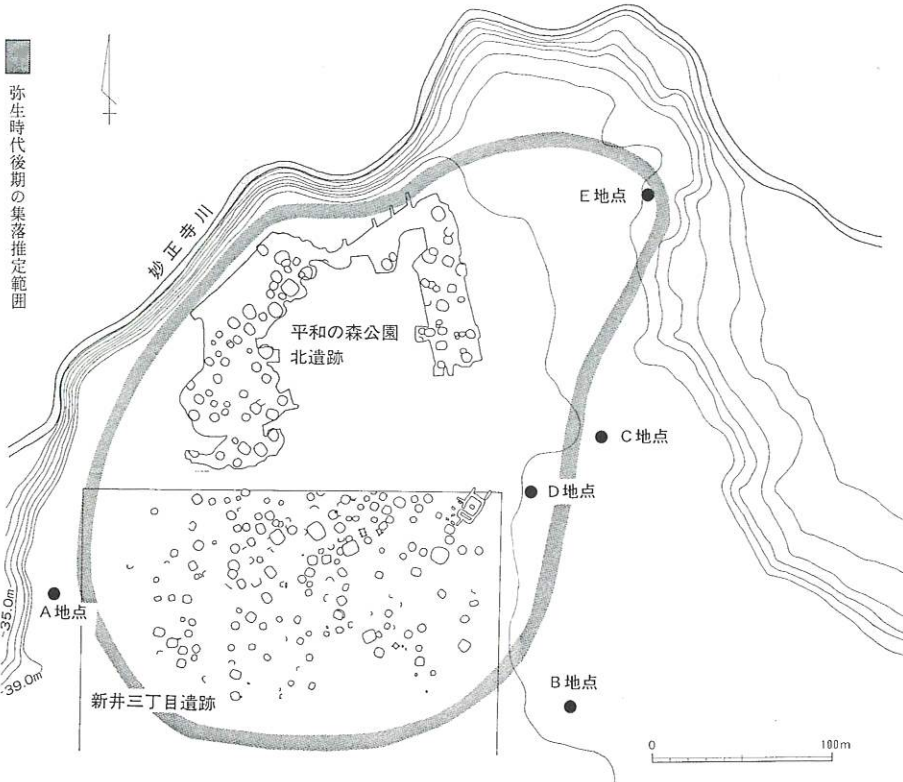
昭和63年5月、新井三丁目遺跡調査範囲の東側にあたるB地点（図1）を住宅建て替え工事に際して、確認調査が行われました。その結果、江戸時代の溝の一部が発見されました。しかし、ここでも弥生時代の集落の広がりを確認することはできませんでした。

### \* C地点

平成8年6月にC地点（図1）の立会調査が行われましたが、遺溝・遺物ともに発見されませんでした。（立会調査とは、開発をする場合でも掘削する深さが浅く、万一遺跡が残っていても、その工事で遺跡が破壊される心配のない場合にすぎり、掘削時に立会い、観察・記録する調査方法をいいます。）

### \* D地点

平成10年6月、D地点（図1）の確認調査が行われました。帯状に3ヵ所、合計約131㎡を発掘しました。地表面から深さ約50～90cmのところ、方形周溝墓や弥生土器陶磁器などが発見されました。新井三丁目遺跡西端で



平和の森公園北遺跡・新井三丁目遺跡

発見された方形周溝墓とは区道を1本隔てた地点にあたります。通常これらの首長墓は歴代首長の墓域として、まとまりをもって構成されており、その点から言えば、この方形周溝墓はさらに広範囲に広がっていたことが予測されます。ここで発見された、弥生時代後期の遺溝は、かつて調査された新井三丁目遺跡方形周溝墓の隣接地に存在することと、その主軸が同一方向を指すこと、形状が溝状であり方形に巡る可能性が高いことなどの点

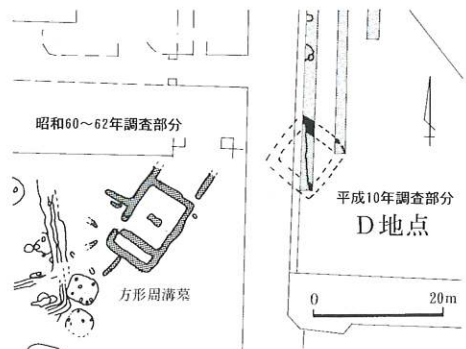
から、新井三丁目遺跡方形周溝墓から連続する新たな方形周溝墓群の一部が発見されたものと判断されます。

#### \* E地点

平成11年10月、E地点(図1)の土地所有者により住宅建築計画に伴う埋蔵文化財についての届け出がありました。中野教育委員会は、工事に先立ち、平成11年11月10日に確認調査を行いました。



D地点出土遺物



方形周溝墓の位置関係

調査を行いました。

幅2m、長さ7mの試掘坑を東西方向に設置し、重機および人力によって掘削しました。

調査の結果、弥生時代の住居跡が1軒、遺物が15点発見されました。遺物の内訳は、弥生土器10点、礫5点で、住居跡に堆積した土の中から出土しました。

建築計画で車庫として深く掘削されるのは、試掘坑を設置した部分だけだったので、可能な限りトレンチを拡張し、住居部分の調査を行いました。遺物は回収し、写真および図面に記録を残しました。

住居跡は、北西部分が調査区域の外におよんでいました。規模は、短軸約3.5mの隅の丸い方形で、主軸方向はN32°Wを指していました。床面は、ローム面をそのまま床に利用したもので、それほど硬くはありませんでした。壁面はやや急に立ち上がり、壁の高さは10.3~13.7cmでした。人工的に掘られた穴が三ヶ所確認され、そのうち、東側の直径約25cm、深さ45.4cmのものと西側の径30×45cm、深さ28.5cmのものは柱穴で、壁際の径約66×54cm、深さ79.9cmのものは貯蔵穴と見られます。また、住居の内側の壁の下を幅10~42cm、深さ7.4~8.1cmの溝がめぐらされていました。

この小さな住居跡の発見が、実は大きな鍵



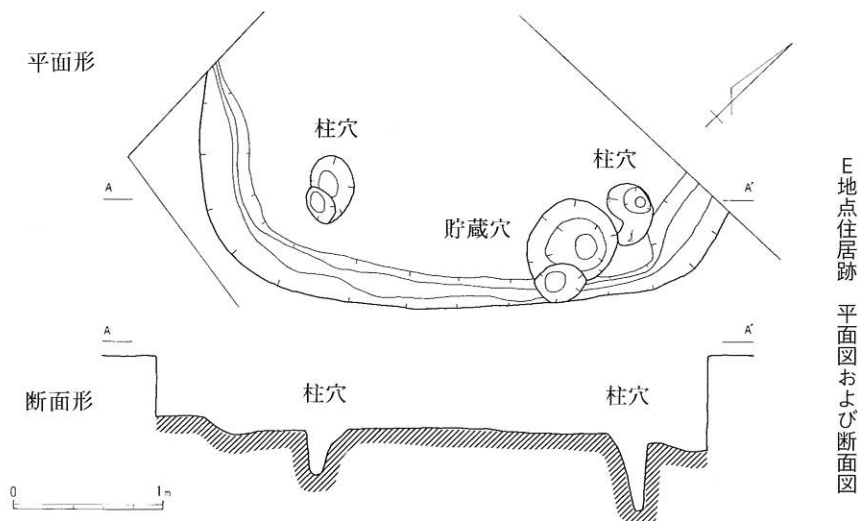
E地点住居跡出土状況を握ると考えられます。

E地点は、平和の森公園北遺跡の調査部分から約100m東にあり、従来考えられていた集落の東端が、約100m、面積では約1,400㎡も広がる可能性が出てきたのです。まだ調査されていない平和の森公園内の少年スポーツ広場部分などとあわせると、数百軒の住居跡が眠っていると考えられます。

このような地道な調査が、思いもかけない新しい発見につながると思います。

偶然発見された数点の土器片から、約1800年前に暮らしていた人々の様子がしだいに明らかになっていきます。

発掘調査は、開発に伴い行われましたが、一方で、中野区の歴史が刻まれた文化遺産を次世代にどのように残してゆくかが、私たちの課題といえるでしょう。



E地点住居跡 平面図および断面図



# 古文書つづり

## 同じ仮名でも 違う文字

『堀江家文書』の解説を行っていることは前回ご紹介しましたが、実際に作業していただいている有志の方々との間で翻字に使う文字がときおり問題になります。原則として名前など固有名詞以外は常用漢字にしますが、その漢字も「峰」と「峯」や「島」と「嶋」と「鳶」のように書分けることがあり場合による判断にならざるをえません。では仮名ならどうかといえば、挙げましたようにこちらも書き方が幾通りかあって読むのに苦労します。

か	け	す	に
か (加)	計 (計)	寸 (寸)	尔 (爾)
う (可)	遣 (遣)	丸 (春)	耳 (耳)
賀 (賀)	希 (希)	須 (須)	丹 (丹)

奈良時代、仮名のうち21種類は言葉によって2つの文字を使い分けていました。平安時代以降この区別は廃れていき、また「い」と「ゐ」など発音の違いが明確でなくなり混同されるものもです。その後の変化と簡便化のなか、それでもいくつかの仮名には複数の文字を使ってきました。これに対し政府は1900(明治33)年に「小学校令施行規則」を実施して字体を統一、ここに一音一文字の原則ができます。しかしご存じの通り「は」でワ、「へ」でエと発音する場合を認めるなど、現在に至ってもこの原則は徹底を欠いています。

言葉は生きた人間が使うものですから変化していくのが当然の流れです。反面、可視記号としての文字は、日本工業規格(JIS)で数値化したものをコンピュータ社会が受容したことから固定化し、一方で手書きの機会が減ったこともあって自然な変容をとげにくくなったといえます。

文字は今後どうなっていくのでしょうか。

◀ 近世文書でみかける平仮名異体字の一例  
カッコ内はくずす前の正字  
『くずし字解読辞典』より

## 中野往来

### 明治・大正時代の詩人 福井学圃

墓・碑:中央2-33-3 宝仙寺

宝仙寺は室町時代に阿佐ヶ谷(杉並区)から移転してきたと伝えられ、江戸名所図会にも描かれた古刹です。境内には、中野にゆかりのある人々の墓所や石碑などが、多く残されています。

そのひとつに明治から大正時代にかけての詩人、福井学圃の石碑と墓所があります。

学圃は、明治元年、四谷坂町に生まれ、父は両替商を手広く営んでおり、明治維新の変革期にもかかわらずたいへん恵まれた環境で育ちました。幼少のころから漢学や書法を習い、神童の誉れ高く、秀才であったようです。

学圃の青年期は、いわゆる鹿鳴館時代といわれた頃で、宮内省<sup>ずしよりょう</sup>図書寮に勤務しました。そのころ学圃が「下役だが、珍しい本を手に入れるには十分な俸給をもらって満足している。」と語っていたのを知った図書頭である森鴎外が重く用いよう

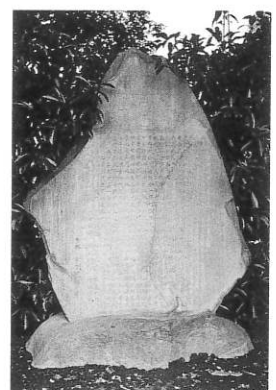
としたこともあったようです。

勤務のかたわら、漢学や書法も教授しており、弟子には、後に内閣総理大臣にもなった清浦奎吾や日本画家の小室翠雲などがいました。宝仙寺住職も弟子のひとりだったようです。

大正七年十月三十日病気のため51才で亡くなった学圃は、宝仙寺に葬られました。石碑は、七回忌のとき、門人、遺族らによって建てられたもので、碑文は日下勾水、上部の題字は清浦奎吾の手によるものです。



福井学圃の墓所



七回忌に建てられた碑

# 事業報告

## 各種事業経過

1999年10月～2000年3月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「郷土玩具コレクション展－暮らしと遊びの『こころ』と『かたち』」	9/15～11/30
	「区指定文化財展」	11/2～11/30
	「秋季所蔵名品展－墨跡の侘」	10/1～12/26
	「冬季所蔵名品展－浮世絵の競演」	1/5～3/31
	「第11回 おひなさま展」	2/11～3/12
史跡めぐり	「川島通りから中野新橋を歩く」 講師：矢島典雄氏（日本石仏写真家協会副会長）	10/30
特別講演会	「郷土玩具と民俗学」 講師：宮本瑞夫氏（立教女学院短期大学教授）	11/6
	「中国の家の信仰と日本の郷土玩具」 講師：韓 秀成氏（国学院大学大学院）	11/7
古文書講座	入門コース 講師：笠原 綾氏（NHK学園講師）	9/4～10/23
	講師：太田尚宏氏（東京学芸大学講師）	[毎週土曜8回]
体験学習	拓本講座 講師：館主任学芸員・専門研究員	3/4～5
文化財調査	青梅街道地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財調査	新井四丁目30番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	11/9
	南台五丁目32番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	12/9
	弥生町四丁目17番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	12/18
	松ヶ丘二丁目28番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	1/22
	弥生町四丁目1番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	2/26
そ の 他	博物館実習：1大学1名	12/1～12/12

## 寄贈資料一覧 1999年2月～10月

敬称略・受入れ順

資料名	点数	氏 名
こけし	4	赤木 明子
雛人形	一式	林 千鶴子
明治中期教科書	3	山田 進
白・杵（製粉用）	2	山口 正美
罹災証明書・種痘済証	12	近藤 道彦
大礼服・軍服・勲章等	一式	澤田 りょう
出征家族鎌倉参詣写真	1	岸 吉郎
日本憲兵正史	3	上野 義治
郷土玩具（うそ）	2	北野 神社
郷土玩具（凧）	3	小さな博物館せん
観音講道具	一式	榎本力造・内田悦夫

電気ストーブ	1	岩本 光司
寝具類	2	福 藏 院
引き伸ばし機	1	吉川 なか
箱 膳	2	山田 アキ
茶 道 具	一式	酒巻 信子
郷土玩具（土鈴）	1	倉員 保海
雛人形	一式	高瀬
寝具類・柳行李	一式	吉田 静江
ガラス乾板ほか	一式	永江良一郎
婚礼衣裳・子供着	17	大月 宏子
和文タイプライター	一式	大野きよ子

◎貴重な資料をありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

## 入館状況

1999年10月～2000年2月（延119日間）（人）

一 般	社教団体	学校教育	合 計
8,718	187	1,732	10,637

発行年月日2000年4月1日

編集・発行  山崎記念 中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田 4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX03(3319)9119

(印刷物登録番号 11中教社第9号)